

第1回 まちづくり市民協議会会議録

日時：平成30年8月21日（火）18時30分～

会場：市役所3階大会議室1～3号

出席者 委員 29人（欠席6人）
事務局 6人

1 委嘱状交付

出席者を代表して田中寛恵氏に市長が委嘱状を交付

2 市長あいさつ

朝夕めっきり涼しくなったが、日中は非常に暑い日が続いている。皆様におかれては、お仕事帰りの大変お忙しい中、ご参集いただいたことに心から御礼申し上げます。

この協議会は、平成17年に第1期がスタートし、今年で6期目を迎える。5期目から、引き続き委員をお願いしている方もいらっしゃるれば、公募により8人の方にもご参画いただいている。また、大学生や若い方が、私たちの仲間としてご参画いただいることを大変嬉しく思うし、活発な論議ができるのではないかと思っている。

さて、私は第5期の最後の協議会でこのように申し上げた。「まちづくりには「地図」と「コンパス」が必要であり、第2次総合計画を「地図」とすれば、「コンパス」は私たちの情熱であり、私たちのやる気である。」これをもっと端的に言うと、マサチューセッツ工科大学の伊藤穰一先生が、次のように述べられている。「世界の変化のスピードがこれだけ速くなると、地図はもはや役に立たない。必要なのはコンパス。不確定な要因が錯綜し、複雑に折り重なって限界が来る現代社会では、事前の予想図に従って特定な航路を選んでも、すぐ想定外の事態に陥って右往左往することになる。大事なのは、何をしたいのか、というコンパスである。」このように述べておられる。まさに、そのとおりに思っている。

また、もう1つまちづくりに必要なことは、「つよさ」と「しなやかさ」である。言い換えれば「ハード」と「ソフト」という見方もあるだろう。先ほど、「地図」と「コンパス」と申し上げたので、登山に例えてみると、登山を遂行するためには、強靱な体力や装備品が必要である。そして万全な状態で登り始めても、気象の変化や遭難、想定外の事態が起ころう。こうした状況下では、いくら強靱な体力や万全の装備があっても、「しなやかさ」つまり、その状況に応じた対応力がなければ、遭難等に陥ってしまう。まちづくりも同じで、私たちは色々な変化に対応するために、様々な準備を行っているが、先般の西日本豪雨のように、全くの想定外が起こる。そうした状況下で、しなやかな決定や行動をとらなければならないと思っている。私は、この度の西日本豪雨でハードの

みならず、しなやかさも必要なことを痛感した。

この度の協議会には、多くの皆様が、光市のことを思って集まっていたが、この協議会こそが、市政にしなやかさを与えてくれる場であろうと思っている。是非、皆様方からは、忌憚のないご意見をいただき、しなやかさを私たちに与えていただきたいと思っている。お願いばかりであるが、私からの最初のご挨拶とさせていただきます。

3 自己紹介

各委員の自己紹介に続いて、事務局が自己紹介

4 会長・副会長選出

事務局案を求める声があったため、事務局案を示し、同意多数により決定

会長 上田 博幸 氏（光市ボランティア連絡協議会会長）

副会長 岩佐 光恵 氏（NPO 法人虹のかけ橋理事長）

5 会長あいさつ

協議会の構成委員のメンバー表を見ると、光市のほとんどの分野の方が網羅されていると思うし、ここで煮詰めた案を、これから光市がどう引っ張っていくのか、ということになる。先ほど市長が登山の話がされたが、登山のための強靱な体力、つまり強力な「市民力」をどこまで出せるか、出すお手伝いができるか、その辺りを考えながら取り組まなければ協議会が生きたものにならないと思う。

20年後、30年後のまちを見据えるのであれば、今、取り組んでおかなければならない。今のまちづくりは少々大人しいと思う。ボツになる案でもよいので、どんどん提案してほしい。今回は20代の学生もご参画いただいております、上は70代、80代の方もいらっしゃる。年齢的には網羅されているし、男女比も適当であり、かなりのものができると思っている。一緒に取り組んでいきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

6 議題

(1) 光市まちづくり市民協議会について

事務局から資料に基づいて説明ののち質疑意見等

●委員

来年から年号が変わる予定であり、平成32年はこないと思うので、これからの資料は西暦で作成するなどの工夫をお願いしたい。

(2) 第2次光市総合計画について

事務局から資料に基づいて説明ののち質疑意見等

●委員

年3回、都合6回の会議でこれだけのものができるのか、という思いがある。評価は、行政が作ったものに対して口頭説明によって行う形だが、分科会のような形で細かく専門的に進めていかないと、何をやったかわからないようになってしまうのではないかと。

●事務局

前回、総合計画を策定する際には、分科会に分かれて、ご意見をいただきながら計画を取りまとめた。この度の協議会では、計画についての進捗状況ということで、どういう形で計画を具現化していくのかという辺りをご報告し、この辺りは進捗が滞っているが、こうした見方もできるのではないかと、などのご意見をいただければと思う。

基本的な進め方としては、分科会というよりも全体的な所で色々なご意見をいただきたい。また、進捗状況のほかに、重要な市政課題や各プロジェクトに対するご意見などもいただくことも想定しているのでよろしくお願いしたい。

●事務局

補足になるが、協議会の役割について、第5期は計画の策定ということで進めてきた。今回は、その計画の進捗管理を行っていただくことが中心になる。計画の策定段階では、広範囲な計画内容になるため、福祉分野や商工分野など分科会に分かれてご意見をいただきまとめてきたが、今回はまとめた計画の進捗管理になるため、分かり易い説明には心がけるが、全体会の時には、全体を通しての視点から、自分の関心のあるところのみでも構わないので、自分の感覚とは違うところや、ここをこうして欲しいなどのご意見をいただけたらと思う。ただ、全体会を行うと色々なご意見がでてくると思うので、委員の皆さん全員がご発言できない場合もあると思う。

一方では、全体の話ではなく、具体的なテーマを絞ってご意見をいただきたい事項も用意しているので、その時は、そのテーマに絞った具体的な話やご意見も聞けるのではないかと考えている。今期に関して、分科会形式は考えてはいないが、議論が進み易い進行などについても工夫してみたい。

●委員

資料2-1の10ページのプロジェクト7のところに「JR光駅の橋上化と周辺整備」がある。高校統合（光、光丘）の話がある中で、光丘高校の生徒さんは7、8割が電車通学ということだが、光高校の敷地に統合後は、多くの生徒が光駅から光高校まで自転車通学になることが想定される。通学ルートを考えて時、島田から消防署までの区間は民家も少なく夜は暗く生徒の安全面で不安を覚える。光駅の橋上化と併せて周辺整備を行うのであれば、こうした場所への街路灯の設置なども総合計画に含まれているのか知りたい。

●事務局

虹森線に街路照明をというお話と思うが、現状を申し上げますと、総合計画にはそうしたものは載せていない。ただ、具体的に明記している箇所はないが、安全・安心の観点からの防犯活動の推進や交通安全意識の高揚など、分野別計画の中で、施策展開の方向

をお示ししている。これについては、地域や警察等との絡みもあるので、現時点ではなかなか申し上げられないが、安全という観点からの照明という点では、考え方は総合計画でお示ししている。

●事務局

高校統合の話は、総合計画策定後に出てきたものであり、策定時には想定していなかった。ただ一般論として、安全・安心の観点から防犯灯や防犯活動の推進は示している。その中で重点的に取り組む箇所や優先順位を考える時に、そうした具体的なご意見をいただいた場所の選択の余地もでてくると思う。

●委員

高校統合は決定しているので、最重点項目として取り組んでいただきたい。

●委員

今後、小学校、中学校の統合も想定されるが、こうした部分の対応も出来る範囲でお願いしたい。

●委員

総合計画の評価書については、非常に丁寧で細やかな把握のしかたと思う。ただ、資料2-2の10ページを見たときに、重点目標2、政策2「教育環境の充実」はA評価となっているが、ここの成果指標「①学校図書標準達成度（全体）」と「②通学路の安全点検の実施回数（累計）」の2つの指標をもって、A評価とするのは少し乱暴な気がする。今、学校現場ではエアコンの問題をはじめ様々な問題があるが、総合計画では「教育環境の充実」を図る指標には、この2つを選んでいる。評価内容と実感とが乖離している部分があるので、こうした部分の細やかさ（指標の見やすさだけでなく）も工夫できないものか。

●事務局

「教育環境の充実」はA評価にしているが、学校現場におられる先生や子どもを学校に通わせているご父兄の方々は、エアコンの設置やトイレの洋式化なども含めて、学校環境の充実が進んでいるのだろうか、と疑問をもたれるのは当然と思う。

成果指標は、あくまで総合計画を策定したときに一例として決めたものなので、それを追いかけていく必要はあるが、この協議会の場では、そういう感覚とのずれや成果指標では表れない部分のご意見、「もっとこうではないか」、「ここはA評価になっているが、実際はこういう課題がある」などのご意見をいただきたいと思っている。成果指標については、あくまで1つの見方にすぎないが、2、3項目の成果指標でA評価とするのは、危険だろうし乱暴であるということは理解しているので、その辺りの感覚のずれをご意見していただければ助かる。

●委員

私には小学生の子どもいるので共感しながら聞いていた。光市は「おっばい都市宣言」など、良い取り組みを行っているが、その内容を知っている人や活用できている人は少ないと感じる。また、自分自身、小学校の英語のボランティアを行っているが、現場サイ

ドの感覚と、評価書にある教育関係分野の評価については乖離を感じている。

●委員

総合計画の説明文の中には「推進します。」などの言葉があるが、例えば有害鳥獣の問題（173 ページ）について、8年前から様々な問題について市に提起してきたが、一向に進んでいない。「有害鳥獣は捕獲隊にお願いしています。」この1点だけが8年間続いている。このことを踏まえ、どういう評価が「推進」にあたるのか。先ほど別の委員からもあったように、本当の評価を行うのであれば、もっと細かく色々な観点の項目から評価を行うべきと思う。

●事務局

総合計画の「鳥獣被害の防止」（173 ページ）では、「推進します。」の言葉が続いているが、具体的な内容は174 ページで中・長期的な取組みや、「鳥獣による農業被害額（年度）」を少なくしていく成果指標をお示しているので、記載事項を達成できるように取り組んでいきたい。

7 その他

○ 事務局から今後の予定等について連絡

- ・次回開催は3月下旬を予定しているが、それまでの間に協議事項が発生した場合には別途開催する可能性もある（開催1ヶ月前には連絡を行う）
- ・会議については本日のように夜間の開催を軸に調整する
- ・ご意見・ご提言は随時、事務局で受け付ける